

## Neues in Nara

Nr.66

2019年1月25日



## Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

## ●行事報告

## 1. 文化講演会・留学生トーク・クリスマス会

当会恒例のクリスマス会は、12月8日(土)午後「ホテルアジュール奈良」にて文化講演会で始まり、留学生トーク・和太鼓演奏と多彩な行事となった。

1) 文化講演会は講師の京都大学大学院教育研究科准教授広瀬悠三先生から「21世紀の新たな教育を考える」と題して、近代ドイツ発展の要となり日本の教育にも大きな影響を与えたドイツ教育哲学を手がかりとして、21世紀のあるべき教育の姿について、具体的な事例を挙げて分かりやすく提起された。



2) 続いての留学生滞在体験トークでは、奈良教育大学1学年のStefania Fiumeさんと郡山高校のCarla Dittmerさんが日本での体験をユーモアを交えて語った後、NPO 寧鼓座のご支援を得て和太鼓の演奏を行い、会場を賑わせた(上記写真参照)。

3) 会場が盛り上がったところで、いよいよ恒例のクリスマス会に入り、Werner Köhler 大阪神戸ドイツ総領事のご参加を得て、総勢50名を超える盛況のなか、平尾英治さんの独唱、西尾功・晶子ご夫妻のドイツと懐かしい日本の歌と飛び入りの連続となった。楽しいクリスマスの夕べも名残りを惜しみつつ、岡田由美子さんのピアノ演奏に乗せてドイツと日本の歌を全員で合唱してフィナーレを迎えた。



(会員だよりは、裏面に掲載)

## 2. 「大安寺国際縁日」

11月3日に大安寺で開催されました「大安寺国際縁日」にJGN若手会員メンバーが参加しました。当日はドイツのボードゲームの体験会ということで、簡単に出来るボードゲームを約10種類用意して無料で体験して頂いたほか、ドイツの写真や情報のパネル展示も行い、ドイツの文化に興味を持って頂きました。



## 3. まほろば国際音楽祭

11月4日、まほろば芸術ラボの主催(奈良日独協会他・後援)で桜井市にて盛況裡に開催され、当会からも会員の有志が参加した。

## 4. ドイツ大使館から大安寺表敬訪問

11月15日、David Meller 一等書記官とともに広報文化部から佐々木美規氏と Djamel Toure 氏が大安寺を来訪された。今回は同一書記官が桜井高校でEUについて講演されたのを機に訪問された。



## 5. 「二上山映画会」に参加

12月14日、香芝市中央公民館で開催された「二上山映画会」(同日、ドイツ映画上映)のフリートークに、当会より会員の吉田はるみさん、峯本理事が参加してドイツ事情の紹介を行った。当会からは、林副会長ほか数名の有志会員が参加した。

## 6. 第2回ドイツ料理教室

12月15日、奈良市の生涯学習センターで開催され、講師の土井 Gisela 先生のご指導を受け、ドイツのクリスマス菓子「シュトレン(Stollen)」を作り、皆で楽しく賞味しました。

## 7. 関西地区日独協会新年会

日時：2019年1月11日(金)18時30分から

場所：アサヒスーパードライ梅田

## ●行事予定

## 第21回シュタムテイッシュ「マイセン磁器の絵付技法」

前回のNeues Nr.65にてご連絡通り、会員の小川住江さんから話題提供頂き、2月17日15時から大安寺「催事棟」にて開催されます。多くの方々のご参加をお願いします。

## ●会員だより

Manfred Ringhofer さんから  
「ドイツの魅力」

オーストリア人として生まれた私が、現在あまり考えられないほど遅くドイツを体験しました。

1975年、24歳の大学院生で、BerlinのStiftung Preußischer Kulturbesitzの図書館で日本と朝鮮半島の資料を探していました。当時のBerlinは、壁、壁、壁で、ここには絶対に住みたくないと思っていました。

1990年9月末に再びこの都市を訪れた時、Brandenburger Torを通ると、すごく感動しました、ドイツ人じゃないのに。勿論、写真付の壁も購入しました。2005年3回目の時、この街をさらに好きになりました。その時、Sachsenhausenも見学し、ここが全強制収容所の司令部があったと初めて知りました。

研究分野において1981年、Münster大学のP. Khevenhörster教授の日独地方分権化の日独比較研究プロジェクトに協力し、日本国内の実態調査の担当者となった私が青梅市と鳴門市から、両市の政策に関する資料を収集しました。

さらに、九州大学が1985年に『多文化教育の比較研究』を出版した時、私が「西ドイツにおける移民労働者子弟の教育」の論文で、ドイツの移民労働者の歴史及び教育政策（特にトルコ人）について書きました。京都大学の小林哲也教授の研究会のメンバーだった私が、70年代からこのテーマに関する多くの資料を持っていました。勿論、論文作成のため、1983年にBonn及びBerlin等で現地の政府機関、NPOなどで貴重な資料を収集しました。

同じ時期に、ドイツ人の友人から魅力的な仕事を任せられました。ブレーメン商工会議所が運営しているBremen Übersee Museum(ブレーメン海外博物館)の新しい方針に基づき、日本の市民運動の実情をドイツへ送りました。日本人の友人が収集の中心となりましたが、私が主に高知県の窪川町の原子力発電所の誘致に対する住民反対運動により、全国的で初めて町長リコール投票が実施され、反対運動が勝利した後に私が資料収集に行きました。

当時、環境保護運動においてあまり考えられない、運動のリーダー10人の言葉を今までに忘れられません。「地元的生活環境を守る時、主義主張とは関係がありません、ここに自民党から共産党まで、いろいろな人間がいます。」

また、Zentralrat Deutscher Sinti & Romaの代表R.Roseが大阪に来た時、同時通訳をしました。1年後、副代表J. Delfeldのため、名古屋で同時通訳しました。結局、好きになったHeidelbergへ行くことができ、ロマンチックな町の夏及びクリスマスを楽しんでいました。

また、本務校の大阪産業大学がWürzburg姉妹大学の仮調印前後で、T. Berchem学長(当時DAAD会長)及びW. Freericks教授と親しくなり、Residenzを始めこの街全体だけでなくワインも好きになりました。その時、大学側から紹介していただいたVolkachのL. Langer(家族経営)に日本まで

ワインを送ってもらえるようになりました。

日本国内のドイツとの関わりも長く、特に大阪Goethe Institut(ドイツ文化センター)で、1976年から2018までに、合計30年間以上ドイツ語講師としてとても有意義な時間を過ごしました。様々な形で、私のドイツ語話者としての文化的Identitätが維持できましたので、とても感謝していません。

80年代に大阪日独協会で尊敬していましたW. Rilzと同時期、私も数年間ドイツ語を教えました。秘書であった金子さんとの親交を得ることができました。

奈良日独協会でも2年近くドイツ語講師を努めました。そして、2017年の10月から和田事務局長のおかげで、再び大阪日独協会でもとても素晴らしい上級の生徒達と楽しくドイツ語で話しています。

大阪日独協会のドイツ語講師として、また奈良日独協会の催しに参加できるようになったおかげでドイツ語話者としてのIdentitätが守られているだけでなく、さらに深めることができ、大変感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも宜しくお願い致します。



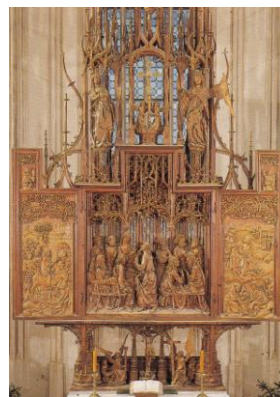
Ringhofer さん近影



Prof. W. Freericks (Uni Würzburg) と



Rothenburg のクリスマスマルクトで Freericks 教授夫人と



Rothenburg : St. Jakobskirche の Riemenschneider 祭壇



Dinkelsbühl で見つけたドイツで唯一の "Ringhoferstraße"!